

教えて！！漢方&鍼灸 – 東洋医学研究所の紹介 –

東洋医学研究所 医局長 津嶋伸彦

皆さん、こんにちは。東洋医学研究所です。

東洋医学研究所というと「何をやっているのだろう」「研究所って治療もやっているの?」「どこにあるんだろう」「興味がない訳ではないけど」「あやしくない?」など分かりにくいところがたくさんあるかと思います。



それはごもつともで、平成4年3月に創立後、平成19年11月まで新宿NSビル、令和元年6月まで田端駅前で診療を行っており、まるで本院の衛星のような存在でしたのでそう思われても無理からぬことかと思えます。お陰様で令和元年7月に河田町の南館1階にたどり着くことができました。「南館ってどこ?」「え?昔の南病棟のこと?」「いつの間に名称が変わったんだ?」場所は新校舎・彌生記念教育棟の道を挟んだ若松河田駅寄りにございますので覚えおきいただけたらと存じます。

東洋医学研究所はれっきとした診療施設で、漢方部門（保険治療）と鍼灸部門（自費治療。職員の方は半額です）に分かれています。漢方部門で取り扱っている愁訴は例を挙げるときりがありませんが、慢性的な疲れ、冷え性、風邪

を引きやすい、免疫力をアップしたい、不眠、ストレス、イライラ、頭痛、めまい、肩凝り、腰痛、関節痛、慢性疼痛、食欲低下、お腹の不調、生理痛、月経前症候群、更年期障害、頻尿、皮膚病、癌の術後に伴う症状、加齢に伴う症状などなどです。

患者さんの年齢は30-50代を中心に、0歳から90歳以上に渡っており、女性が約7割を占めています。鍼灸部門の患者さんも女性が7割以上で、50代が最も多く、肩凝り、腰痛などの整形外科的な愁訴が多いのですが、当鍼灸部門では顔面神経麻痺にも力を入れており、たくさんの患者さんが受診されています。

「こんな症状だけど診てくれるかな」「検査しても異常はない患者さんだけご紹介してもいいのかな?」。何か気になることがあれば一度門を叩いてみてください。ともに考え、少しでもお役に立てればとスタッフ一堂お待ちしております。

